

みなとが変わると日本が変わる～21世紀の活力はみなとから～

港湾空港ニュース香川

—高松港湾・空港整備事務所だより—

2014

5

月号

<No.184>

CONTENTS

- 大規模流出油回収合同訓練
- 「清龍丸」一般公開
- 高松港ガントリー完成式典(設置)
- 空港関連
- 「美讃」一般公開



国土交通省 四国地方整備局
高松港湾・空港整備事務所



想定外の想定

東日本大震災から早二年三月を迎えようとしています。国内でのM9・0という地震は当時、想定外とされてきました。これを契機に南海トラフの地震の見直しが行われたわけですが、これまでは宝永地震が最大級とされてきました。日本はいつどこでどれぐらいの災害があったか、きちんと文献に残されていますが、これまで記録されている9回の南海トラフで発生した地震のうち記述が正確と思われる江戸時代以降の地震を評価して宝永地震(一七〇七年)が最大と考えてきたのです。

しかし、ある調査で北海道の道東で500年に1度の大地震と大津波が発生することがわかりました。古い文献のない北海道でどうしてわかったのか、それは地層調査により津波堆積物が残された層があり、それで定期的に大津波が来ていることがわかったのです。勿論、大震災以前から南海トラフや東北でも調査は行われていたのですが纏まっていなかったのです。

調査結果を見ると、南海トラフでは何度か大津波が来ていたようですが、

宝永地震の他に正平地震(一三六一年)、仁和地震(八八七年)、白鳳地震(六八四年)が大きかったようです。しかし、文献のない時代である約2000年前の津波は更に巨大だった可能性があるようです。世界ではチリ地震がM9・5ということまで、東日本大震災の5〜6倍のエネルギーがあったようですが、約6600万年前に遡るとメキシコで直径約10キロメートルの隕石が衝突することによりM10の地震が発生し約300メートルの津波が発生したと言われています。この時の気象変動などで恐竜が滅亡しました。では、想定を大きくすればよいのかとなりますが、無闇矢鱈と大きくするのはやはり無理があります。中には十数年の確率などを検討しているグループもあるようですが、資金も人材も有限である中では途方もないようなものではなく、最新の知見の中である程度現実味のあるものとし、やれることを確実にやっていくことが重要です。

高松港湾・空港整備事務所長

久米 英輝

油回収合同訓練

四国地方整備局は四月十九日(土)、中部地方整備局や第六管区海上保安本部、日本埋立浚渫協会四国支部などとともに、坂出港沖で大規模な油流出事故を想定した油回収合同訓練を実施しました。合同訓練には当事務所の海面清掃兼油回収船「美讃」をはじめ、中部地方整備局名古屋港湾事務所の国内最大の浚渫兼油回収船「清龍丸」や高松海上保安部の巡視船「くまの」などが出動。四国地方整備局の防災ヘリコプター「あいらんど号」が「清龍丸」に離着陸したりし、本番さながらの訓練を展開して災害時に備えた連携体制を確認しました。



▲出動式の様子

坂出港から約5キロ離れた備讃瀬戸東航路でタンカーと貨物船が衝突し、20キロリットルが流出したとの想定で実施した海上での油回収訓練では、事故現場海域において「美讃」と「清龍丸」が油回収作業、巡視船と民間船舶が流出油を拡散する放水作業などを展開し、油流出の被害防止を図りました。

(沿岸防災 大西)



▲防災ヘリ「愛らんど」着艦の様子



▲油回収作業船団による回収訓練の様子



▲油回収器にて回収作業訓練中の「清龍丸」

平成二十六年四月二十日(日)、油回収合同訓練に参加した中部地方整備局名古屋港湾事務所所有の浚渫兼油回収船「清龍丸」の一般公開を行いました。

「清龍丸」は、大規模な油流出事故の発生を想定し、日本のほぼ全域を四十八時間以内でカバーできるよう、各地に三隻配備された大型の油回収船の一隻で、新潟港、北九州港にも同様の船舶が配備されております。

「清龍丸」は、通常はドラグサクシオン浚渫船として船舶の輻輳する航路・泊地等の浚渫を行っています。大規模な油流出時には、直ちに浚渫を中断し、現場海域に向かい、油回収作業を行うこととなっています。

一般公開には、坂出市主催で開催された西岸壁の供用式典のご来賓の方々、一般公開のチラシや坂出市の広報誌を見て訪れた約四百人の方々に清龍丸の機能や役割について理解を深めていただきました。

(企画調整課 山崎)

「清龍丸」一般公開



▲西岸壁に接岸した「清龍丸」



▲船内公開の様子



▲「さかいでまろ」も乗船

高松港でガントリークレーン始動

平成二十六年四月二十四日（木）、高松港コンテナターミナルに於いて香川県初となるコンテナ荷役を専門に行うガントリークレーンの利用が可能となったことを受け、安全祈願祭・始動記念式典を、高松港振興協会・高松港運協会および、高松港コンテナターミナル振興協議会・香川県港湾協会の主催により開催されました。

高松港コンテナターミナルは、平成九年六月の開設以来順調に取扱貨物量が増加し、現在、国際コンテナ定期航路として5航路（韓国航路、上海航路、青島・大連航路、中国・フィリピン航路）が運行し、四国内では中国の港に最も多く寄港しています。



▲関係者による万歳三唱



▲くす玉開被の様子



▲クレーンを見つめる関係者

新バースが四月より供用を開始することにより、増加する貨物を取り扱う荷さばき地に余裕ができること、また、今後2隻同時にコンテナの積み下ろしができることから、沖合にて入港待ちがなくなることやガントリークレーンにより荷役時間の短縮が期待できるなど、効率的な荷役が行えるようになります。

当事務所としても、コンテナを含む国際物流により、地域が益々活性化することを期待しています。

（企画調整課 山崎）



▲ガントリークレーン始動

高松空港 羽田、上海、台湾線増便へ

高松空港は、平成二十六年三月三〇日（日）以降のダイヤ改正により、国内便では、東京（羽田）線が、1日13往復（1往復増便）、国際便では、上海線 週4往復（1往復増便）と台湾線 週4往復（2往復増便）が増便され、ますますビジネスや観光に利用しやすいダイヤになりました。

また、昨年十二月から格安航空会社（CC）ジェットスターが1日2往復で運行している、東京（成田）線は六月末に、格安航空会社（CC）の春秋航空日本が1日2往復の東京（成田）線を運行開始する予定であり、東京（成田）線は合わせて1日4往復となります。

香川県は、断続的に満車状態となっている空港駐車場において、増便を受けて更なる空港利用者の増加が予想されるため、高松空港の北東に隣接する県有地などを県営駐車場に整備する予定であり、空港利用者の利便性を高め、これまで以上に利用しやすい環境を整えていく予定です。

（企画調整課 田村）



▲増便で賑わっている高松空港



▲国内線搭乗ゲートの様子



▲春の高松空港

5万トン級岸壁(サンポート高松)

入出港予定



練習船 「青雲丸」 5,890トン

入港 7月11日(金) 11時00分
出港 7月16日(水) 13時30分



実習船 「香川丸」 499トン

入港 7月20日(日) 15時00分
出港 7月21日(月) 17時00分
※海の日: 7月21日(月) 一般公開

旅客船 「飛鳥II」 50,142トン

入港 8月13日(水) 6時00分
出港 8月14日(木) 12時00分



【ご注意ください】

船の入出港時には、網取用の銃(もやい銃)が放たれる等、大変危険且つ作業の支障となりますので、岸壁付近には近づかないようお願い致します。
また、入出港日、時刻はあくまで予定で、前後又は変更する場合があります。

海の日「美讃」

7月21日(月)一般公開

毎日瀬戸内海に漂う浮遊ゴミの回収や、事故などで流出した油の回収を実施している海面清掃兼油回収船「美讃」がサンポートに寄港します。この機会に是非サンポートにお越しください。



昨年の一般公開の様子

イベント情報

リフレッシュ瀬戸内

—ボランティアによる海岸清掃活動—

【日時】7月5日(土) 8:00~2時間程度

(少雨決行:ただし荒天時は中止)

【場所】坂出市沙弥ナカダ浜~大屋富海岸

【内容】海岸の清掃

【問い合わせ先】

坂出市総務部政策課政策調整係

TEL: 0877-44-5001

※上記以外にも各地の海岸等で清掃活動を行っております。詳細は下記までお問い合わせ下さい。



* 昨年の模様



●高松港湾・空港整備事務所

〒760-0011
高松市浜ノ町7番9号
TEL087-851-5522
FAX087-826-1210

●坂出港分室

〒762-0002
坂出市入船町1-5-26
TEL0877-46-0311
FAX0877-45-4689



国土交通省・四国地方整備局
高松港湾・空港整備事務所

【ホームページアドレス】

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/takamatsu/>

お気軽にアクセスしてください♪
皆さんからのお便りもお待ちしています。

『海とみなとの相談窓口』全国共通フリーダイヤル

おーいによくなれみなと
0120-497-370

受付時間* : 9:30~12:00と13:00~17:00
(土・日・祝祭日・年末年始を除く) *一部の地域を除きます。

